

第9回 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録

日 時 平成26年8月28日(木) 10時00分～11時10分

場 所 東京工業大学すずかけ台キャンパス 大学会館2階 集会室1

出席者 木村 茂行, 坂井 悦郎, 高田 雅介, 谷口 元, 鈴木 紀雄 の各委員

所内説明者 伊藤 満 (応用セラミックス研究所長)
笠井 和彦 (共同利用・研究支援室長, 建築物理研究センター長)
川路 均 (安全管理支援室長)
神谷 利夫 (特別教育研究費プロジェクト拠点サブリーダー)

配付資料

- 別紙1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 別紙2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
- 別紙3. 第8回東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録(案)
 - 1-1. 平成26年度応用セラミックス研究所教員人事について
 - 1-2. 応用セラミックス研究所教員組織
 - 2-1. 平成25年度決算額
 - 2-2. 平成26年度予算配分表
 - 2-3. 外部資金受入状況について
 - 2-4. 平成26年度科学研究費補助金一覧
 - 3-1. 平成27年度概算要求事項(特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト)
 - 3-2. 平成27年度概算要求事項(先端無機材料共同研究拠点の形成)
 - 4. 共同利用研究(H16年度～H26年度)実績データ
 - 5. セキュアマテリアル研究センター活動報告(平成26年3月～26年8月)
 - 6. 建築物理研究センター活動報告(平成26年4月～26年8月)
 - 7-1. 特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト組織表
 - 7-2. 特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト研究テーマ
 - 7-3. 特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト概算要求(本文)
 - 7-4. 特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト概算要求(積算内訳)
 - 7-5. 6大学連携プロジェクトニュース 2014.03 VOL.03 No.2
 - 7-6. 英語書籍目次案
 - 7-7. 六研連携運営協議会第5回臨時会議 第7回ポスト6研検討会議事録(案)
 - 8. 本研究所における研究論文などの研究業績データ
 - 9-1. 応用セラミックス研究所学術賞 受賞者
 - 9-2. 2014年度応用セラミックス研究所学術賞 受賞記念講演会・新任客員教員講演会
 - 10-1. 国際会議・ワークショップ開催状況
 - 10-2. 講演会開催状況
 - 10-3. 平成26年度学術講演講師一覧
 - 11-1. 応用セラミックス研究所受賞者一覧
 - 11-2. 平成26年パブリシティ
 - 11-3. 研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移

席上配布資料

- 応用セラミックス研究所パンフレット 2014
- 応用セラミックス研究所活動報告（要覧）第 18 号
- News Letter No.32
- 共同利用研究報告書 平成 25 年度

定足数の確認

運営委員総数13名，公務欠席8名，定足基準数5名，定足数3名，出席者5名で成立

委員長の選出

運営委員会規程に基づき、木村茂行委員を委員長（議長）に選出した。

議事要録の確認

木村議長から、前回議事要録（案）について説明があり、これを承認した。

議 題

1. 教員人事・教員組織について

伊藤所長から、資料 1-1～2 に基づき、平成 25 年 4 月 1 日～8 月 1 日までの応用セラミックス研究所の教員人事及び現在の教員組織について説明があった。

2. 平成 25 年度決算および平成 26 年度研究経費について

伊藤所長から、資料 2-1～4 に基づき、平成 25 年度の決算額，平成 26 年度運営費交付金の予算配分，外部資金の受入状況等について説明があった後、質疑応答が行われた。

3. 平成 27 年度概算要求について

伊藤所長から、資料 3-1～2 に基づき、平成 27 年度概算要求「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」及び「先端無機材料共同研究拠点の形成」について、それぞれ要求額が例年より増えている旨の説明があり、引き続き、神谷教授から補足として、平成 27 年度の概算要求は、文部科学省の方針により、国立大学からは「全国共同利用・共同実施分」しか要求ができなくなった為、主に大型設備を中心に増額要求することになった経緯の説明があった。

4. 共同利用研究実施状況について

笠井共同利用・研究支援室長から、資料 4 及び平成 25 年度共同利用研究報告書に基づき、研究経費，研究者数，採択数の推移について説明があり、現在行っている取組みとして、PR に重点を置き、共同利用研究報告書に一目で研究の概要がわかるように、パワーポイントのデータを掲載したこと、R3 棟 1 階ロビーにインフォメーションディスプレイを設置し、各部門の紹介、イベント等の紹介をしていること、さらに内部の講演会を活性化するため、PR の方法を改善している旨、説明があった。

5. セキュアマテリアル研究センター活動状況について

伊藤所長から、資料 5 に基づき、時限付きセンターとなった経緯及び、現在の課題となっている時限終了後の任期付教員の対応等について説明があり、引き続き、今年度の活動報告として、人事異動，講演会・シンポジウムの開催状況，褒賞等の概要について説明があり、今後の活動予定としては、次期センターの立ち上げのため、概算要求を行う予定であり、現在、内容について検討中である旨の説明があった。

6. 建築物理研究センター活動状況について

笠井センター長から、資料6に基づき、同センターの組織、人事異動の状況、主なテーマ、講演会・ワークショップの開催状況等について説明があり、今年度の活動予定として、平成27年3月に国際シンポジウムを開催予定である旨説明があった。

7. 全国共同利用附置研究所連携事業「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」の活動状況について

神谷教授から、資料7-1～5に基づき、組織、研究テーマ、平成27年度概算要求の概要等について説明があり、引き続き、資料7-6に基づき、これまでの研究成果の公表として、英文書籍の出版を進めていること、また、資料7-7に基づき、本プロジェクトは来年度が最終年度となるため、新しい連携プロジェクトの検討を始めており、次期プロジェクトは私大・企業も含めた連携を検討している旨説明があった。

8. その他

(1) 研究論文などの研究業績について

伊藤所長から、資料8に基づき、本研究所における研究論文などの研究業績データの説明があり、平成25年度の論文数が減少している理由として、教員の定年退職・他大学への異動等の人事的要因と、若手教員との面談で、論文は数より質を上げる方向で話をしたこと等が主な要因と考えられる旨、説明があった。

(2) 学術賞等の状況について

伊藤所長から、資料9-1～2に基づき、これまで「応用セラミックス研究所長賞」としていたものを今年度から「応用セラミックス研究所学術賞」に名称を変更したこと、また、これまでの受賞者の一覧、今年度開催した受賞記念講演会・新任客員講演会について概要説明があった。

(3) 国際会議・講演会等の開催状況等について

伊藤所長から、資料10-1～3に基づき、平成26年度の国際会議・ワークショップ・講演会の開催状況、及び学術講演講師一覧について説明があった。

(4) 研究成果等の社会広報について

伊藤所長から、資料11-1～3に基づき、平成26年度の教職員等の受賞者一覧、研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移等、パブリシティ関係の説明・報告があった。

(5) 次回開催予定について

伊藤所長から、次回の開催予定については、平成27年3月を予定しており、後日、事務から日程調整の連絡をさせていただく旨、説明があった。

以上